

令和2年度 公立高校入試 問題分析 【国語】

■問題分析

1. 全体を通して

大問構成は例年通りだが、第一問が2問増えて15問になり、配点も28点から32点になっている。第二問と第三問が1問ずつ減ってどちらも配点は20点となった。第四問の古文、第五問の作文の配点に変化はない。第一問の問題数が増えたことや、第二問に30字以内の記述問題と55字以内の記述問題が出題されたため、時間配分が難しい構成だったと考えられる。

2. 大問ごとの分析

【第一問】国語知識・資料と対話文

問題数が増えたものの、特別難問といえるものはなかった。過去問演習をしていれば、落ち着いて対応できる大問だと思われる。

【第二問】文学的文章

森絵都の小説からの出題。森絵都の作品は、平成27年度前期選抜で出題されたことがある。前述のとおり長めの記述問題が2題あり、問題数は減ったものの解答に時間がかかったと思われる。問四の55字記述は、「心情の一番の根拠は会話文」という国語の基本を押さえて書けるかどうかが鍵になるだろう。

【第三問】説明的文章

本文は芸術論や自然観がテーマとなっており、文体は平易であるが内容はやや高度であった。また、文構造としては随筆寄りであり、このことが問五の55字記述を難しくしている。問二も字数は10字と少ないが、あてはまる内容を見つけて具体化するには時間が足りなかった受験生も多かったと思われる。

【第四問】古文

枕草子からの出題であり、訳がほとんど書いてあるため、難しい問題ではない。問二(一)で「対比されて」というところに着目できれば、全問を取りきることができるだろう。

【第五問】作文

例年通り160～200字の作文である。書くべき内容があらかじめ2つ指定されているため、その通りに構成すればよく、比較的書きやすかったと思われる。

■出題・配点一覧

科目	大問・単元	形式・内容	問題数	配点	小計
国語	第一問 国語知識 資料と対話文	漢字の読み書き	8	16	32
		行書・熟語・表現等	4	8	
		内容理解(記号)	2	5	
		書き抜き以外の記述	1	3	
	第二問 文学的文章	記号選択	2	6	20
		書き抜き	1	3	
		書き抜き以外の記述	3	11	
	第三問 説明的文章	記号選択	2	6	20
		書き抜き	2	6	
		書き抜き以外の記述	2	8	
	第四問 古文	歴史的仮名遣い	1	2	8
		記号選択	1	3	
		書き抜き以外の記述	1	3	
第五問 作文	作文(160～200字)	1	20	20	

■令和2年度 公立高校入試 問題分析【数学】

■問題分析

1. 全体を通して

構成は例年通り大問4問となった。基本的な内容を問う問題が多く、素早く正確に計算することが必要とされた。昨年もそうだが、これまで第三問で出題されていた1次関数の出題が極めて少なくなった。文章読解や資料の整理、図形との融合問題などが出題される傾向がみられる。

2. 大問ごとの分析

【第一問】正負の数、式の計算、根号を含む計算、2次方程式、おうぎ形と三角形の面積

第一問は小問集合問題。どれも難度は低めであるので、確実に正答したい。8は 30° から $1:2:\sqrt{3}$ を見つけること、おうぎ形の中心から弧上の点を結ぶ補助線を引くことがポイント。どちらも定石。

【第二問】1次方程式、確率、1次関数と $y=ax^2$ 、立体の体積

どの問題も基本的な内容であった。昨年出題されなかった確率の問題もあったが、明らかに同じアルファベットが続くほうが多いから、 $1-$ (同じアルファベットが続かない確率)として考えれば早い。

【第三問】資料の活用と分析、関数、方程式

資料の活用はいたって平易。記述もあるが、文中に割合という言葉があるから迷うことなく相対度数を考えられるだろう。2では図形の周の長さに注目して距離を求める。落ち着いて考えれば決して難しくはないが、見慣れないパターンだったことから戸惑った受験生も多かっただろう。(1)さえ解ければあとは難しくない。最後の問題は文章から1次方程式または連立方程式の基本問題としてみることができる。

【第四問】三平方の定理、平行線と比、相似な図形

証明に相似や合同が用いられなかったことは珍しい。しかし、根本となる考えは相似な図形なので、確実に点数を取りたい。また、例年最終問題は極めて難しい問題が準備されているが、今年度はFから垂線をおろして直角三角形を作って三平方など、内容としては基本的な内容であった。

■出題・配点一覧

学年	単元	配点	計
中学1年生	正負の数の計算	6	41
	文字式で表すこと	3	
	1次方程式	10	
	比例のグラフ	5	
	立体の体積	8	
	資料の整理と活用	9	
中学2年生	式の計算	6	18
	図形の性質	5	
	確率	7	
中学3年生	根号を含む計算	7	41
	2次方程式	3	
	2乗に比例する関数	8	
	相似な図形	4	
	平行線と比	6	
	三平方の定理	13	

■令和2年度 公立高校入試 問題分析 【社会】

■問題分析

1. 全体を通して

大問構成は例年通りで、第一問～第三問がそれぞれ地理、歴史、公民。第四問と第五問が融合問題である。昨年出題された、地図を塗り潰すといった宮城県の入試には珍しい問題は出題されず、構成・内容ともに今までの公立高校入試の傾向通りの問題であった。しかしながら、全体的に記号問題の難易度が高く、特に時系列についてはより確かな知識が要求された。

2. 大問ごとの分析

【第一問】 地理

世界地理を中心とした内容で、記号・記述ともに難問はみられなかった。最後の記述も資料を使い切れば正解できる内容である。

【第二問】 江戸時代までの歴史

昨年と同様、知識が時系列で整理されているかどうかを問う問題が出題された。知識が曖昧な受験生にとっては、記述問題よりも記号問題の方が難しかったと思われる。

【第三問】 公民

例年と比較して、人権についての出題が多かった。3は「ワイマール憲法」＝「生存権」とだけ記憶していたために、労働者の権利と上手く結びつかなかった受験生が多かっただろう。

【第四問】 融合問題

日本地理を中心とした融合問題が出題された。第一問でおもに世界地理が出題され、第四問に日本地理が多く出題される構成は昨年と同じである。地域ごとの特徴についてやや細かい知識が問われたため、難易度はやや上がったと思われる。

【第五問】 融合問題

近・現代史を中心とした融合問題が出題された。記号・記述ともに基本的な知識を問うものが多く、きちんと復習をしていれば満点を狙える大問である。

■出題・配点一覧

科目	大問・単元	形式・内容	問題数	配点	小計
社会	第一問 地理	記号選択	5	15	20
		文章記述	1	5	
	第二問 歴史	記号選択	5	3	20
		文章記述	1	5	
	第三問 公民	記号選択	4	12	20
		単語記述	1	3	
		文章記述	1	5	
	第四問 融合問題	記号選択	4	12	20
		単語記述	1	3	
		文章記述	1	5	
	第五問 融合問題	記号選択	3	9	20
		単語記述	2	6	
		文章記述	1	5	

■令和2年度 公立高校入試問題分析 【英語】

■問題分析

1. 全体を通して

基本的に昨年度の後期選抜試験の出題形式を踏襲する問題構成だった。ここ3年間は「長文読解」と「対話文」であったが、今年度は「長文読解」が2題となり、「対話文」が出題されなかった。ところどころに、難しいと思われる単語が使われていて、教科書の隅々まで学習して、細かな単語も覚えていなければならない、ということを感じた。

2. 大問ごとの分析

【第一問】リスニング

記号選択は、問題をよく聞いて理解できれば、それ程難しくは感じないと考えられる。ただ、問題3の1番は人物名や出来事についてよく聞かないと、誤った答えを選ぶ可能性があると考えられる。記述は、母に頼まれる前に予定があることを伝える必要があるので be going to を使って書くのがよい。

【第二問】文法

昨年通り教科書レベルの単語や文法を基に出題されていた。1(3)の「done」は教科書ではあまり頻出ではないが、直前に I've とあるので過去分詞形を選べばよく、易しい問題であった。2(1)の「felt」は、直前までが現在形のため「feel」と書かないように気をつけたい。普段から基本的な単語の学習をする必要がある。

【第三問】長文読解①

本文をよく読み、設問に出てくる英単語を手掛かりにすれば、答えを見つけられる問題であった。

【第四問】長文読解②

対話文ではないが難易度は大きな変化なく、比較的易しい問題であった。新傾向として、センター試験にも出題されている「段落の内容」を記号で解答させる問題が出題されたが、段落の内容が読み取れば正答を簡単に導くことができる。また、本文には「enter」や「pick up」など、中3 Let's Read2 で出てくる単語が含まれているため、第二問同様、幅広く単語を勉強する必要がある。

【第五問】英作文

「ウェブサイト」がヒントになっているため、昨年度よりも易しくなっている。①は、Rick が OK! と返事をしていることから勧誘や提案表現で書く。②は、比較表現を使用して解答する。

■出題・配点一覧

大問・単元	形式・内容	問題数	配点	小計
第一問 リスニング	記号選択問題	7	21	25
	記述	1	4	
第二問 文法	適語選択	3	6	20
	適語補充	2	6	
	語順整序	2	8	
第三問 長文読解①	記述説明(日本語)	1	4	16
	英問英答	1	4	
	文整序(5文)	1	4	
	書き抜き(英語)	1	4	
第四問 長文読解②	適語選択	3	8	28
	記述説明(日本語)	1	4	
	英問英答	2	8	
	適文選択	3	8	
第五問 英作文	一文の英文	1	3	11
	三文以上の英文	1	8	

■令和2年度 公立高校入試 問題分析 【理科】

■問題分析

1. 全体を通して

例年同様第一問に小問集合が36点分で、第二問から第五問までが各分野から単元を絞っての出題で、それぞれ16点分となっている。第二問からの点数の内訳を見ても、例年通り基本的には3点で4点問題が1問ある形式であった。記述のうち、ある程度の分量を書く必要があった3題であるが、いずれも「～にふれながら」といった指示があったため、分量に対しては比較的書きやすかった記述であった。難易度は過去5年の中でも易しい部類に入ると考えられる。

2. 大問ごとの分析

【第一問】小問集合

4分野から基本的な内容の出題。風が発生する要因がわかっているならば容易に満点が取れる。

【第二問】化学分野(イオン)

中和の基本的な仕組みからの出題であり、いずれも平易な問題。確実に取り切りたい。

【第三問】地学分野(天体)

昨年1問も出題のなかった天体からの出題であった。星座と月では別な日の同時刻に観測をしていったときの動きが異なっていることとその原因である月の公転が理解できているかという出題であった。指示があったとはいえ分量のある記述はやはり書きづらく、その部分で差がつくと考えられる。

【第四問】生物分野(植物・蒸散)

1年生の植物分野からの出題。記述を除くと葉以外からも蒸散が行われていることだけ見落とさなければ十分取り切れる難易度であった。記述は教科書内容から逸脱した題材からの出題ではあったが知識面を問うものではなく、与えられた資料から得られる情報からきちんと考察が行えるかという思考力を問う問題であった。

【第五問】物理分野(電流と磁界・力のつり合い)

2年生の電流と磁界・3年生の力のつり合いの融合問題であった。静止するための条件であるつり合っている力を正しく記述できるかという部分を問われた記述問題であった。知識があることはもちろん、正しく記述できるかという力が問われており、分量のある記述を書く練習を繰り返すことが合格の鍵であると言えよう。

■出題・配点一覧

大問・単元	形式・内容	問題数	配点	小計
第一問 小問集合	記号選択	6	18	36
	語句補充	3	9	
	記述	1	3	
	計算・作図	2	6	
第二問 化学	記号選択	3	10	16
	語句補充	2	3	
第三問 地学	記号選択	3	9	16
	語句補充	1	3	
	記述	1	4	
第四問 生物	記号選択	3	9	16
	語句補充	1	3	
	記述	1	4	
第五問 物理	記号選択	3	9	16
	記述	1	4	
	計算	1	3	